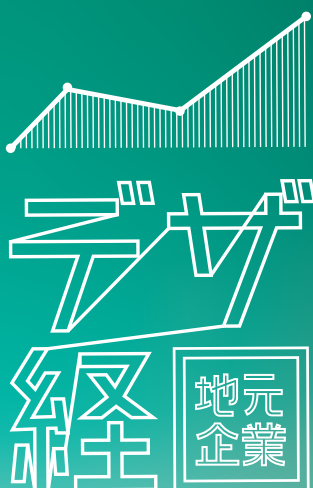


中小企業のアイデンティティから発露する

デザイン経営を実践する



関西の地元企業と共に事業者のアイデンティティに根ざしたデザイン経営で実績をあげてきたSASI。

苦しい時も経営者に伴走するスタイルで、変わらない価値観であるアイデンティティから発露する未来をデザイン経営で実現するプログラム。

ブランド

新事業展開

組織作り

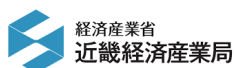
イノベーション



関西の中小企業8社に対して、デザイン経営のセッションやデザインワークを実施。

また目指したいデザイン経営の概要やアート思考などを学び、実践的かつ持続的なデザイン経営の基礎を行う。8社がデザイン経営の実践によって、変わりゆく様を示し、結果を出すことで「魂（アイデンティティ）から発露するデザイン経営」を関西に浸透させるための事業。

主催

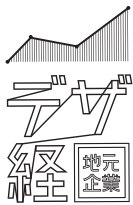


企画 / 運営



協力



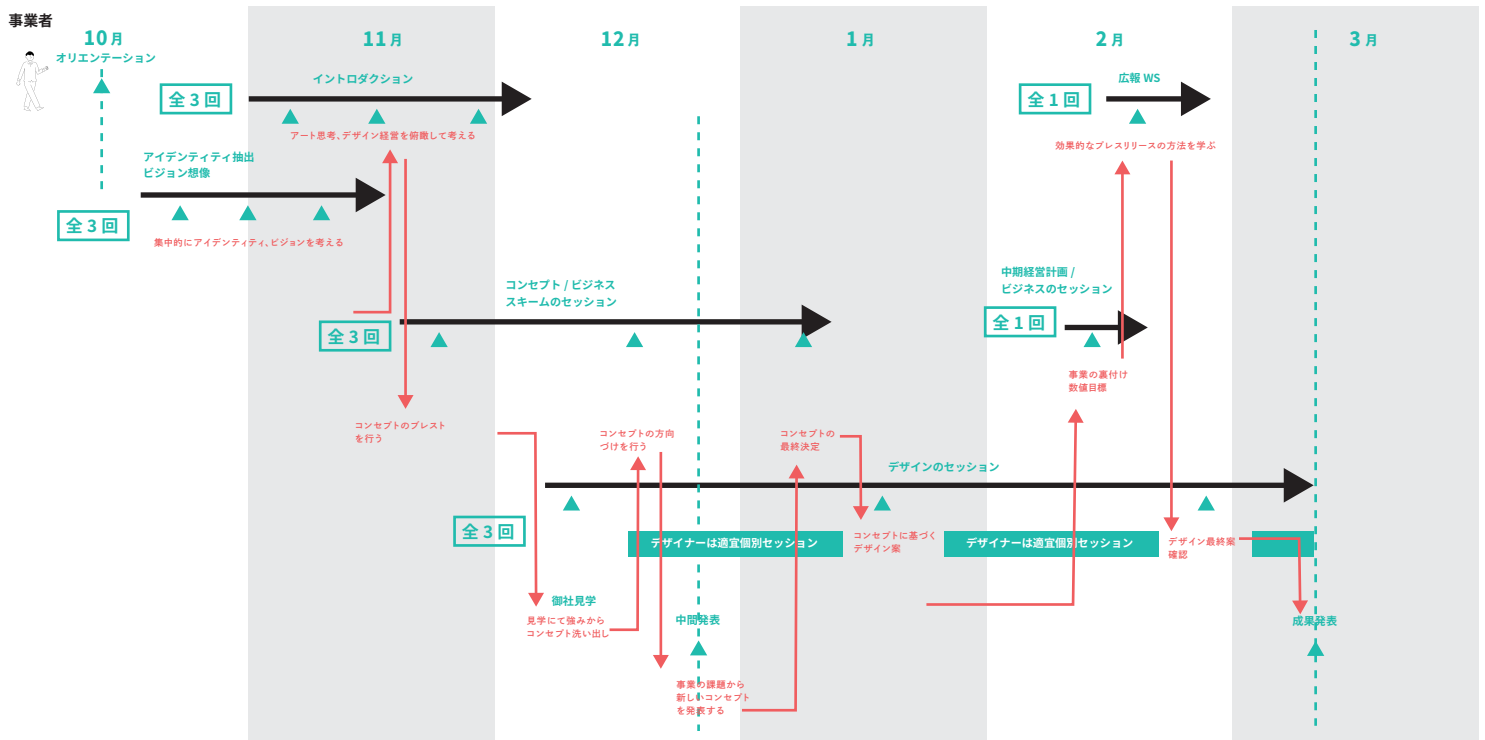


第一回報告

アイデンティティからブレないデザイン経営を

目指すデザイン経営とは、ビジョンを達成するための経営戦略（経営のデザイン）から、事業自体の戦術（広義のデザイン）、そこから商品やサービスの形（狭義のデザイン）までを一貫した美しい経営だと考えています。そのためには、芯をブレさないための事業者自身から湧き出てくるブレない価値観としてのアイデンティティという価値の「モノサシ」を持つ必要があると考えています。

事業実施内容



アイデンティティ抽出について

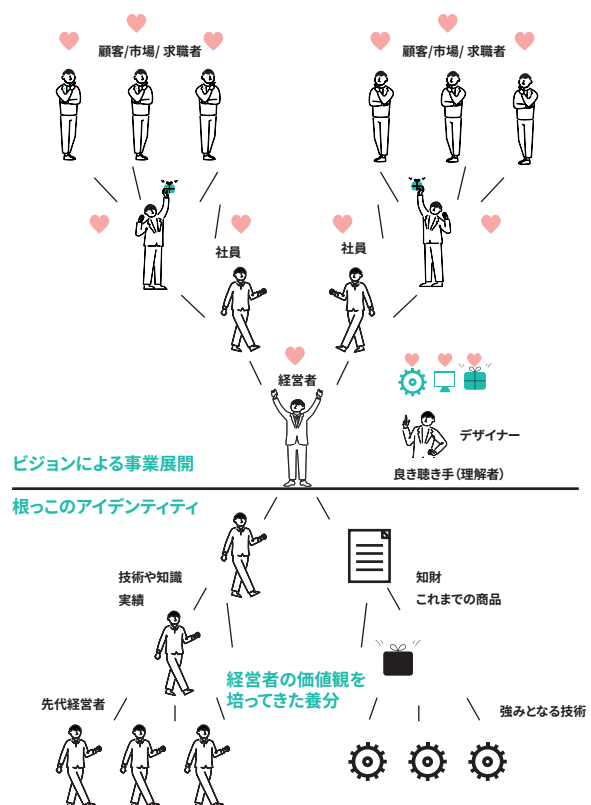
事業者の価値観の根っこを理解する

事業は打つ手全てがうまくいくというものではありません。正確に表現すると、打ち手の十中八九はうまくいかないことが多いのが実際です。

私たちが目指すデザイン経営は、芯をブレさずにビジョンに向かうために、アイデンティティという変わらない価値観としてのモノサシを探し、そのアイデンティティからなる想いを伝えるためにものや色、強いては戦略まで見える形に表すためにデザインを活用することが必要だと考えています。

変わらない価値観であるアイデンティティが事業者の中で理解できているからこそ、事業がうまく進まない時にでも立ち戻り「何のために事業を行うのか?」「向かう先はどこなのか?」と自問自答しながら前に進むことが出来ます。

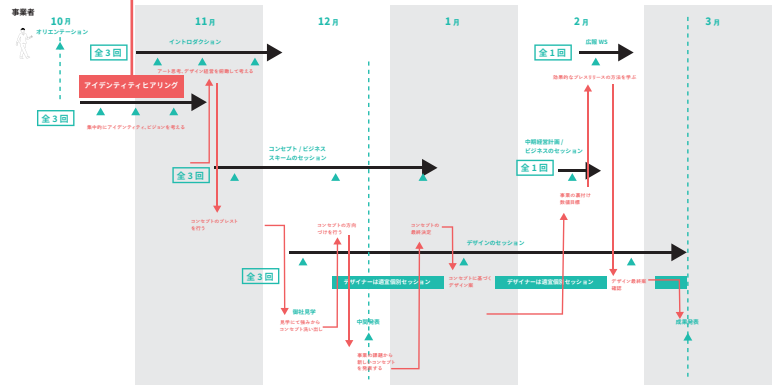
このアイデンティティは急に現れてきた価値観なわけではなく、事業者がこれまで触れてきたさまざまな出来事や価値観、人々からの影響から養ってきた自分自身の価値観です。事業者の根っこをしっかり理解をし、その価値観を伝えるためにデザイナーは聞き手となり、その想いをよりたくさんの方に伝えていくことこそがデザイン経営の肝であると考えます。



アイデンティティヒアリング

向かうべきビジョン、事業者の 価値観の根っこを確認する

全工程の中でもっとも慎重に耳を傾け、事業者の向かう先（ビジョン）がどこからくるのか？という根っこであるアイデンティティを対面でしっかりと確認するフェーズ。
アドバイスをするのではなく、傾聴することに全力をそそぎ事業者も気づいていない想いを引き出すことが目的。



事業者概要

参加企業一部の方々の会社概要



株式会社トーヨーメタル

大阪府堺市

銅やアルミなど非鉄金属のロウ付け、溶接加工請負。

株式会社濱田

和歌山県田辺市

梅干、梅酒、梅加工品の生産、加工、販売。

ハードロック工業株式会社

大阪府東大阪市

緩まないねじ「ハードロックナット」の製造販売。

ヒアリング 1 回目

事業の概要や課題、事業者の気持ちを探る

どんどん経営の真ん中に立っていく

課題：自社の価値創出とブランド展開

陣内潤希さん

かつてはメガバンクに勤め、中小企業支援を行うも疑問が生まれた。そこで中小企業 M&A のコンサルティング会社に転職するものの、様々な経営者に触れていく中で自分自身が現在のトーヨーメタルを第三者承継をし、経営者となる。非鉄金属の安定性が魅力であったものの、実際に働いていく中で、もっと会社としての誇りを高めたいと考えるようになる。

梅干しを面白いと思えなかった

課題：PB 商品が多いが、歴史やストーリー等の情報発信不足。

濱田朝康さん

現在、梅の栽培～加工・販売まで行う会社の経営に携わる。いずれ家業を継ぐ為に微生物学を学ぶ。その後沖縄のスーパーマーケットにて経営企画部で 5 年務める。30 歳で父親から声がかかり、家業に戻るが、昔から変わらない梅干し業界を新しい視点で発信したい気持ちに駆られる。また田舎具合を逆にとり発信したいと思いつつも、理解者も少なく、前に進めずいた。

世界一の製品を売るということ

課題：コーポレートメッセージの発信不足。

若林雅彦さん

「緩まないネジ」をお父様である現会長が開発し、その世界一のネジを世界中に販売するために奔走している。かつては単なる町工場と思っていた家業が、叔父さんや世界的教授から「世界を変える世界一のネジ」であることを教わる。緩み止め性能は世界一ということを理解していきながらも、会社の内部はまだマネジメントが出来ていないと悩みつづける。

